

令和5年度PDCAサイクル実施計画／管理表

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
放射線治療センター	放射線治療を必要とする患者への機会拡大	緩和目的における院内紹介の停滞	1. 疾患別カンサーボードへの積極的介入 2. 院内での放射線治療教育の推進	2024年3月					
	放射線治療患者の支援	治療患者に対する、治療説明が多く、患者さんも理解しにくい	説明ビデオ等の利用	2024年3月					
		苦痛のスクリーニングを令和4年度から行っているが、回数などが適切なのか分からない	令和4年度に収集したデータを分析しスクリーニングの回数等の検討						
		放射線治療終了後のフォローができていない	放射線治療終了患者の診察、及び看護師外来の実施						
		患者向け院内図書サービスの拡充	患者からのニーズにあったデータ分析と対応						
新規核医学治療への対応	ルテチウム治療における運用が複雑、また汚染対応に時間がかかる。	令和4年度の実施状況から運用及びマニュアルの見直し、物品の見直し	2023年12月						
化学療法センター	安全な治療の提供	CSTDの導入が遅れている	1. CSTDの使用薬剤の拡大 2. CSTDの使用について、薬剤部、看護部と検討 3. レジメン、使用方法についての検討	2024年3月					
		アナフィラキシー対応に不慣れ	1. アナフィラキシーの勉強会の開催 2. フローチャートの作成と運用 3. 医師との連携 4. フローチャートの見直し	2024年3月					
		治療件数に伴った看護師の確保が困難	1. 化学療法に携わる看護師の育成 2. 教育プログラム、マニュアルの作成 3. 放射線治療科や呼吸器内科とのシームレスな連携 4. ベッドコントロール	2024年3月					

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
がんゲノム診療センター	中東遠医療圏医療機関からの遺伝子パネル検査の受け入れ	・浜松市の医療機関(浜松医大、聖隷浜松等)への検査依頼が多い ・依頼および当院での事務手続きが煩雑	・ふじのくにネットの活用:依頼元にも専従の事務員、検査技師、薬剤師の配置を依頼。そのための勉強会や説明会の企画開催 ・パネル検査に関与する遺伝コーディネータの働き方改革:タスクシフトやシェア	2023年7月					
	遺伝カウンセラーの育成	常勤遺伝カウンセラーが不在	浜松医科大学からの定期的な非常勤派遣を継続し、その間に育成する	3年後まで					
緩和ケアセンター	QOLを重視した高度で良質な症状緩和の医療を提供	緩和医療科入院対象を消化器内科・外科に加え2023年2月より呼吸器内科も追加した。運用継続とケア提供の充実を図ることが重要。 <small>(拠点病院整備指針IV-3要件(1)緩和ケアセンター③緊急緩和病床の確保)</small>	1. 消化器内科・消化器外科に加えて呼吸器内科の入院を増やす 2. 月30件以上を目指し、該当しそうな症例がいれば積極的に主治医へ働きかける	2024年3月					
		がん患者の苦痛の把握及び適切な対応ができるよう、苦痛のスクリーニングを継続するとともに、患者報告アウトカム(PRO: Patient Reported Outcome)の活用が求められている。 <small>(拠点病院整備指針II-2診療体制(1)診療機能③緩和ケアの提供体制・サ)</small>	1. 緩和ケアガイドラインの修正と周知 2. 苦痛のスクリーニング継続と評価 3. 痛み日記の活用と運用評価	2024年3月					
	緩和医療における地域連携の拡充	中東遠地域医療機関における緩和医療連携が不十分 <small>(拠点病院整備指針IV-3要件(1)緩和ケアセンター④連携協力に関するカンファレンス)</small>	1. 中東遠緩和ケア連携カンファレンスの継続 2. 中東遠地域の医療従事者研修を通じて顔の見える連携を図る	2024年3月					

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
がん相談支援センター	がん相談件数	メンバー退職のため相談員の減少に伴う相談件数の減少が予測される	1、相談件数を維持し2500件を目指す 2、新規職員の基礎研修への受講を進める	2024年3月					
	患者サロン	・参加者が少ない ・新規参加者が少ない	1、新規参加者のを増やすための効果的な広報 2、リピーター確保のための魅力的なサロンの実施	2024年3月					
	がんゲノム医療	・相談員の知識、情報不足	1、がんゲノム医療に関する知識を深める ・「がん専門相談員のためのがんゲノム医療」相談員マニュアルの活用 ・がんゲノム医療について勉強会への参加	2024年3月					
	告知後のがん相談支援センターへの来訪	告知後にごがん相談支援センターに立ち寄る患者がいない	1、コメディックスや医局での説明等にて院内広報を実施 2、相談支援センターでの対応体制の確立	2024年3月					
	グリーフケアパンフレット	昨年度までにアンケートを実施し、現場でのグリーフケアの現状と課題、ニーズを分析した。実際のパンフレットが未作成となっている。	1、アンケート結果を医療者に伝え、グリーフケアのニーズと現状を共有する 2、グリーフケアのパンフレットを作成する	2024年3月					
がん診療センター	がん関連サポートチームの活動確保	メンバーが多岐にわたる業務を行っているため、チーム活動に費やす時間が十分ない	補助事務員の確保	2023年7月					
	がん術後連携パスの整備	・院内においてがん術後連携パスの運用が十分ではない ・連携医療機関が十分ではない	・パス使用診療科へのサポート ・提携先医療機関を増やす ・パスの内容の定期的な見直し	2023年7月					

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
院内がん登録	がん登録体制の充実	現在初級2名、中級2名の体制で実施している。配置基準は満たしているが、有資格者のさらなる配置でがん登録体制を充実させる。また、継続して、実務認定者の知識の維持向上を図る。	1. 国立がん研究センターが開催する研修を実務者全員受講する。 2. 初級・中級認定試験をそれぞれ1名受験する。	2024年3月					
	がん登録情報の公開	がん登録情報を集計し継続して情報公開に努めていく。	1. 2022年症例登録完了提出後速やかに(2023年秋頃)集計した資料をホームページへ公開する。 2. 今年度は、乳房、前立腺の登録情報を集計し院内掲示する。	2024年3月					
薬剤室	外来腫瘍化学療法診療料における連携充実加算算定件数の増加と指導体制の構築	がん患者指導管理料ハの算定に関する指導も別にあるため、指導タイミングが重なったり、他業務との都合で指導に入れない患者が出てきてしまう。	・がん患者指導管理料ハにおける定型説明に関する部分の指導方法の検討(動画作成など) ・限られた人員での効率的な指導体制の検討、構築	2024年3月					
		同じような時間に対象患者が複数人いる場合、化学療法室滞在時間の短いレジメン患者だと治療が終わってしまい介入できない。マンパワー不足のため+αの指導人員確保が困難。	・患者に記載してもらう副作用申告シートなどの指導補助ツールの作成 ・限られた人員での効率的な指導体制の検討、構築	2024年3月					

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
臨床研究管理室	静岡県がん治験NW受託研究における研究実施支援	県内がん拠点病院が参加する研究の実施にあたり、その特殊性から医師やメディカルスタッフへの支援が引き続き必要。また、支援側にも経験を補う知識が必要。	研究には継続してCRCが介入し、研究計画からの逸脱や有害事象対応に遅れがないようコーディネートを行う。知識向上のため、CRCの該当領域研修への積極的な参加を勧める。	2024年3月					
	がん研究の推進・広報	オプトアウトをHPへ掲載する際、がんに関係する研究を学会に発表する場合は抄録も合わせて提出依頼しているが、あまり周知されておらず掲載率が低い。	審査結果を連絡する際、該当研究者には必ず伝達し提出を依頼する。	2024年3月					
リハビリテーション技術科	がん患者に対するリハビリテーションの提供体制の充実	人員要因によるがんリハの取り漏れがある。	・がんリハ資格を有する技師の計画的な育成	2024年3月					
	がん患者に対するリハビリテーションの提供体制の充実	がんリハ実施割合・実施件数が伸び悩んでいる。	・実施割合(2022年度:65%)→目標70%、実施件数(2022年度:6,545件)→目標6,700件へ増加する。	2024年3月					
地域医療支援室	がん教育の拡大	1. 講座件数が増加傾向。(令和4年度8件+3件) 2. 進級に伴い継続した教育を受けられるようにする。	1. がん教育以外の出前講座を依頼している中学校に働きかける。 2. 段階的教育の提供が可能で、3年間の継続教育に繋がる働きかけをする。	2024年3月					
	市民公開講座の開催	年間2回の開催のうち、1回は「がん」に関連した開催を実施している。	1.地域の方に「がん」に関する知識を知ってもらう。テーマによって広報先を検討し、開催後はYoutubeで配信する。昨年はAYA世代がテーマで外部講師を招いた。サバイバーの講演は職員に啓発するためバリテス配信を検討することになった。	2024年3月					

部署名	実施計画(P)				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	実行(D)	評価(C)		改善(A)	
						区分	実施内容	区分	次年度への改善内容
健診センター	生活習慣の見直しからのがん予防 (特定保健指導の実施率向上)	特定保健指導の実施は本人の意志に委ねられている	行動変容を促す情報の提示(ステージによるアプローチ方法の整理)	2024年3月					
		生活習慣病の予防や生活習慣改善に関する、意識や意欲の持ち方が人それぞれである	対象者が健康的な生活を維持できるよう支援(重症化の予防)						
	がん検診の受診率や精検率の向上	任意であるため、標準検査項目に含まれているが検査を受けない場合や、オプション検査となるので費用面で受けない場合がある。健診受診後の対応や行動は本人次第である。	1. 精度管理された国の指針に基づいたがん検診の提供 2. 健保との連携を深め、受診者への有益な情報の提供 3. 精検への受診勧奨	2024年3月					
栄養管理室	食欲不振食の新規構築	がん化学療法時の食欲不振食の対応	新規メニューの作成 軽食対応 デザート対応	2023年10月					
	化学療法室での栄養指導	対象患者のスクリーニング	初回化学療法導入時より介入(消化器内科・外科)	2024年3月					
	栄養サポートチームとの連携	入院患者への栄養管理	頭頸部がん・呼吸器等治療のための入院患者へのNSTチームとしての介入	2024.3月					